

八雲町としても、関係者の合意形成が図られながら、新幹線工事が円滑にとり進められるよう、しっかりと対応してまいりますので、皆さまのご理解ご協力をお願いいたします。

**【注1】
自然由来重金属等とは**

もともと地質に含まれている重金属であり、セレン、鉛、ひ素、ふっ素、ほう素、カドミウム、六価クロム、水銀の8種類で、温泉成分や食品等にも含まれているものです。

【例】鯉節(含：セレン)、ひじき(含：ひ素)

重金属等は人工物ではなく、通常の環境では人間も含まれてすべての動植物に微量に存在している物質であり、多くは人体に必要な元素となっていて、その物質自体が危険というわけではありませんが、摂取量によっては健康被害を生じることがあるため、慎重に対応する必要があります。

**【注2】
土壌汚染対策法に規定されている基準等**

土壌溶出量基準(飲用による健康リスクを想定)と、土壌含有量基準(直接的な摂取による健康リスクを想定)の

2つを指し、土壌溶出量の基準値は、人が70年間、1日2リットルの地下水を飲用することを想定し、一生涯にわたるその地下水を飲用しても、健康に対する有害な影響がない濃度として設定されています。

【注3】

【参考】

札幌ドームの容積は約158万m³なので、八雲町内から出現する対策土量(約200万m³)は、札幌ドーム約1.3杯分に相当します。

【注4】

学識経験者等の第三者で構成される「北海道新幹線自然由来重金属等掘削土対策検討委員会」において、対策工が審議・検討されます。

【北海道新幹線新八雲(仮称)駅について】

◆どんな駅になるの？

八雲町では、昨年度、新幹線新駅を含めた周辺整備基本計画を策定しました。

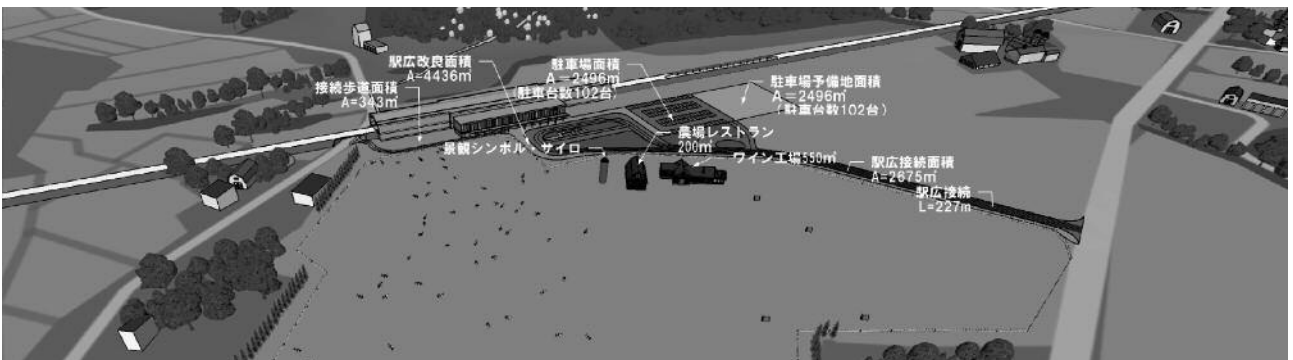
計画における新駅周辺の整備方針としては、建設地が市街地から直線距離にして約3kmほど離れた酪農地域であることから、せつかくの北海道らしい農村景観を保全して現

状の牧歌的風景を売りにできないよう、駅前広場や駐車場は過大になりすぎないようにし、「牧場の中にある駅」をキーワードとした、八雲らしい他とは違った個性のある玄関口となるような整備を行っていくこととしています。

具体的には、駅舎は、周辺の牧歌的風景に相応しいデザインで、例えば牛舎やサイロをモチーフとしたものを想定し、駅前の牧草地には牛が放牧されていて草をはむ光景が広がり、駅周辺には、観光(体験)農場や農場レストラン、ワイン工場(ワイナリー)が配置されることを考えています。

新駅の1日当たりの乗降客数は552人を想定し、駅前広場は約4,500m²(バス、タクシー乗降所、短期駐車場など)、駐車場は約2,500m²(102台)を計画しています。

今年度からは、この基本計画に基づき、町民参加の推進会議などをとおして皆さまの意見を取り入れながら、また、関係機関とも協議をしながら、二次交通やソフト対策も含めて、具体的に駅周辺整備を検討していくこととしています。



【おわりに】

2030年度の新函館北斗・札幌間の開業に向け、これからも町民皆さまのご理解ご協力をいただきながら進めてまいりますので、よろしくお願いたします。

【問い合わせ先】

新幹線推進室推進係

☎0137-62-2300

＜広告＞



お問い合わせ

ビレッジハウス住まい相談センター

☎0120-83-0201 ☎03-6369-3978